こしたと「サーカス上野デス」とふれては

「御前台オプレモト」と木箱にいれてもは

の「オモチャオモチャデー」と処にあると

を売るのも「本ヤマエ」と絵本を売るものな

と様々である。次に又「ガタンガン」をはじめ、

すこして「大久保、大久保」と呼ぶ。「下りリテ

を中心に御覧ナサイ」と言って呑る。「私はじめ一同

下車する。機関手車掌一同はうすしておいて

案内の店を執り、「ホラコンビキレイデー」と

急に駆け出して往って黒板に自働で富士山書き。

がはじめ。「エー」名古屋二行路時ヒハダ富士ノ御

山ガ見エルデスとふれてはるかにある。「ド

レドコンデスカと問ふと、「ホラ御覧ナサイ」と大

さえも知らせて起きる。即ち乗る。「ガタンガン」

は名古屋二行キマスカラ早月オノナラスキーと親切

と見え、車掌他の人の命令順序に按て居

来ました。それと此日には重に大森、慣務を呼

び、前にあった発車、進行、拝幕などの事柄の外

に新しく、「モーナ夜メラシナー」「サーサモオキナ

デー」「サーサモオキナイサー」などと乗客にふれて

はまる事があへられ、前に木片なりし切符は紙片に

改良せられ、私の居る處には「先生ノトコハキレ

イニシチゲマセウ」と、車室に「賞は腰掛のよ

りかりに」織をふら下げました。

又二三日後の雨天の日に、第三回のものが企てられ

したが、其時には以上的事柄の外に「ビシャン」と
言ひながら客車の戸を開開する事、暗いカラーコ

リツケマスとつとめ大いの夢の話の様ではこ

上に向いて、パチっと燻きを擦る燈をとるす

事が加はります。

右はまるで辻褄の合はぬ大人の夢の話の様ではこ

ざりますが、もはや為で大人からは可笑しき處のま

じつて居りますのが、それが即ち幼児の幼児たる處

で、遊遊は質に幼児の生命である。と申しますが、

此汽車遊をつといたして、幼児は幼児だけ

の規律を守つて居る事でございましますから、規律に服

従するといふ習慣も養はれますし、多勢で居る事で

ございますから、相互の協同一致といふ分子も無

論必要でございますし、一緒におもしろく遊べば遊

ぶほど社交的感情も他愛の感情も温まりますし、其

邊にある物をいろいろに利用してのでございま

すから、思考工夫の力も養はれますか。くえへ立て

ますと此汽車の遊びから幼児達が受けました利益は

なかなか少なくはございません。又違った側から考へ

ますと、幼児はつとつ事に興味を有ちます。これ

うふ事を見記憶して居ります。このうふ風に思

想を発表します」といふような事を、幼児自ら演

じて私の目前に提出して居る事にもなりますから、

私の材料にもなった事でございます。

序に書き添へますが、それは、此遊は私が別に

指図をいた事は少しもいたしませんで、幼児になり

て遊んだのでございますから、従て此遊は全く

幼児の力で企てられ考へられ実行せられたの

で、衆兒は自由意志を実行する事のできる為に非

常の愉快を感じ、一回一回と其しかたや事柄が進

み、且つ注意の继続の短い幼児の集合であるにも拘

らず、第一回には一時五十五分間、第二回には一時

十五分間、第三回には一時五十分間といふ風に幼児

としても永く注意がつづければ興味を有つて居った

事でございま

- 62 -
この記録は一九〇三年（明治三十六年）の「婦人と子ども」（本誌の初期の名称）第三巻第七号に掲載された。六月号にちなんで、雨の日の保育である。園吉によると「おそらくこれが日本で最初に活字の形で報告された保育の記録」であるらしい。しかし、この記録の仮名遣いや言葉遣いなどがしょもしら現代風に修正されていたから、一九世紀以上も前のものとはまずわからないだろう。

子ども・の・言動をとらえて「 конструкの合は人で人人の夢の話の様であるのがそのような遊びは実に保育の生命である。という見方で普通的である。また自主的な遊びにおいて「規律に服従するといふ習慣」「他愛の感情」など

一方で、「幼児自ら演じる」思想についても参考の材料にもなったとする。

関係的な省察の姿勢もあることに驚かれる。保育史の関をしらべると、この頃はまだ思慕は箱の中に大切にしまわれていたはず。また小刻みな時間で生活が細分されていたのは、必ずしも幼児の生活が一定ではなく、「記述された保育の歴史」を裏切っている。記載なのだとも吉是いう。

☆この連載は、日本の幼稚園創設三十年を迎えて、本誌の昔の記事を振り返り、現在の私たちの立ち位置を確認する作業の一助に企画したものので。